

ユーラシアンホットライン

被災地の文化会館職員と連携した慰問音楽キャラバン「アジアの心」プロジェクトに向けて

大野 遼

3月11日の地震、津波、原発事故発生と東日本巨大地震の被災地の現状から早急に復興するためには、政治家も国会も被災地に移転し、瓦礫の撤去にあたり、炊き出しをしながら行なうことが一番必要だと、何度も書いてきたが、現実には180度迂遠な状況にあって、怒り心頭に達する現状だ。そしてさらにイライラする発言が多くなってきた。嫌々ながら引き受けた復興大臣とはんでもない精神状態の人だった。

「何市が何県かわからない」「長幼の序。ちゃんとやれ」「最後の言葉はオフレコ。書いたらその社はおしまいだ」と宮城県知事やマスコミ各社の記者を叱責、恫喝した松本復興大臣。彼は岩手県でも「知恵を出すところは助けるがそうでないところは助けない」と喩然とさせた。被災した現地の復興をわがこととして考えない上から目線の発言は、震災から10日後にもあった。原発1号機への放水に「速やかにやらなければ処分する」と海江田万里経産相が発言し物議を醸した。既にメルトダウンがわかっていたにもかかわらず2ヵ月後に東電が炉心融解をみとめたが、当然この大臣はメルトダウンを知っていたはずだ。おそらくだからこそその恫喝だったかもしれない。この海江田経産相は、佐賀県知事に「(玄海原発)再開に国が責任を持つ」と発言した。事故によって自治体が消失、ゴースタウンとなり、何の責任も取れていない現実を目の当たりにしながら「国が責任を持つ」とよく言えたものである。開き直ったように「原発は安全」と言い抜ける学者もいる。被爆に不安や恐怖を感じている福島県の被災者にすればほとんど人道に反する犯罪に近い発言を続ける澤田哲生・東工大教授などもテレビに出演するようになった。地震や津波そして原発事故の被災がまだ渦中といった現状にある中で、心無い政治家や御用学者の妄言、今の国会の様子、政治家への信頼の失墜は底を抜けた感があり、もう言うべき言葉もない。被災地の人々の忍耐や思いやり、復興への強い意志や覚悟、に対するにはあまりにも、よそ事としか考えていないことを示す発言のオンパレードだ。首相は、心無い復興大臣を任命したり、経産相に「原発再開」の動きをさせながら、被災地や原発事故への自らの責任をあ

いまいにして、とってつけたように「再生可能エネルギー」を口にし、政治的延命のためのスタンドプレーに利用しながら、国会の延長を行なった。まったく時間と税金の無駄遣いの何ものでもない。こんなことを書いている間に復興相の辞任のニュースが流れた。海江田経産相も宙に浮いた。首相が、組織をつくったり、誰かに任そうとしたりしながら、自分とはってつけのスタンドプレーで逃げている現状が混迷の本質だ。首相だけではないが、被災した大地に足を踏みしめて活路を見出そうという政治家がいけないことが不幸の源だ。

残念ながら、このままではこの国に未来はない。限りなく人類の未来への希望も、失せそうになるが、とりえず私のできる範囲内で被災者に喜んでもらえるよう活動を続けたい。

私は、6月23,24日の二日間、東京アイヌ協会名誉会長の浦川治造さん、イーグル・アフガン復興協会理事長の江藤セデカさん、ユーラシアンクラブの理事成宮勇さん、そして尺八界の頂点で活動を続ける橋本岳人山さんら10人で、宮城県南三陸町、東松島市で、慰問のミニコンサートや炊き出しの活動を行なった。今号のニュースレターの最後に記した8月12日のチャリティコンサートで発表する創作曲「2011年3月11日 絆」の曲づくりと私のつくるヒマラヤカレーとアイヌ料理「鹿肉と野菜のオハウ」を被災者に食べていただくのが目的だったが、おそらく曲づくりも、野菜の多い料理も喜んでもらえたと思う。

私たちのやったことは、これから行なう活動の手がかりをつかむためのもので、400人分の食材、調理具、その他を用意した上での、初めての活動だったが、初期の目的は達せられた。今後、チャリティコンサートや募金、その他の活動条件を整備しながら、継続して活動できるように努めたいと思っている。

今は、チャリティコンサートの成功のために最大限の力を注ぎ、秋以降の活動の準備も並行して続けるつもりだ。チャリティコンサートにもぜひ足を運んでいただき、引き続き皆様のご支援をお願いしたい。

今回の私の活動のために11人(団体)から計16万5千円のご寄付が寄せられ、食材、調理具、調味料、燃料代等に14万円ほど使用させていただきました。残金は、秋以降の活動費用に充填させていただきます。また、成宮勇さん、樋口直正さんからは、同行者、調理具、食材等の運行に必要な車両を提供していただきました。ご支援いただいた皆様へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回食材を私の住む神奈川県下で購入し現地に送ったり、私が軽トラで運んだりしましたが、少し工夫すれば現地で調達できることもわかりました。炊き出しでは、被災者は野菜が喜ばれる現状にあることもわかりましたので、野菜ベースのチキンカレーでもあるヒマラヤカレーは引き続き調理したいと思います。ご支援いただいた皆様へ、大野 遼 拜

今後チャリティコンサートの収益で慰問音楽キャラバンを実施の計画ですが、炊き出しも含め相当の額が見込まれ、皆様のご寄付に頼ることになります。ご寄付、食材その他ご協力いただける方は、下記の住所にお送りいただくか、下記のNPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの口座にお振込みいただくようお願いいたします。またスタッフとして現地を同行を希望される方もぜひご連絡ください。活動の成功のため皆様のご理解ご支援を心より切望します。

(寄付金の振込先、私の連絡先)

住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1 NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ
口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190 NPO ユーラシアンクラブ 愛川サライ
連絡先：046-285-4895 (TEL/FAX) paf02266@nifty.ne.jp 090-3814-5322(大野遼)

<<被災地支援報告>>

第一回 慰問コンサートと炊き出し実施してきました

6 月 23,24 日、宮城県南三陸町、東松島市への慰問コンサートと炊き出し支援は参加者 10 人で実施されました。東京アイヌ協会・カムイミンタラは千葉県木更津市から 5 人、ユーラシアンクラブ・愛川サライ、イーグル・アフガン復興協会からは 5 人が新宿駅西口にあったん集合の後出発し北海道蓮田サービスエリアで合流の後、宮城県仙台南に向けスタートしました。

支援活動に当たっては、多くの方から食材、調理具、調味料、交通費等へのカンパをいただき、軽トラやバンを用意して万全の準備で臨みました。当日思いがけない事故等で参加を取りやめる人もでしたが、あいにくの雨の中、先を急ぎ、受け入れ先となる被災地の調整と案内に当たってくれた宮城県大河原町えぞホールの水戸所長、玉淵職員と連絡を取り合いながら 11 時過ぎ仙台南で合流できました。

その後、南三陸町を訪問。町全体を飲み込んだ津波被害の現状を目の当たりにしながら山間に丘の上の被災地を目指しました。プロ野球やサッカーチームのキャンプ地でもあった山間に設置された住宅、体育館に生活する皆さんに挨拶し、現状についてお話を伺った後、被災者と活動参加者が協力してすを並べ、即席の演奏会場を設営。橋本岳人山による演奏がスタート。尺八界最高峰の音楽を紹介、心からの拍手が湧きました。岳人山は、自らが肺気腫で再起不能と医師から宣告されながら、家族との絆で奇跡が起きて左肺が再生し、医師を驚愕させて今日に至ったことを紹介しながら、希望を捨てず一緒にがんばりましょうと語りました。

岳人山は、実は学生時代に海洋学研究に携わり、実習で三陸町の津波調査をしていました。地元には「浜に家を建てるべからず」と家訓を守る家があり、津波被災の恐ろしさを伝える伝説があり、岳人山の恩師も学界で警鐘を鳴らし続けていた人でした。記憶する南三陸町一体の海岸を視察した岳人山は、青年の時、牛乳を 8 円で買ったお店も含め、全て変わり果てた瓦礫の町に、思い去来交錯するところが大きいにあったようです。私は、「2011 年 3 月 11 日 絆」と題した曲づくりを依頼し、岳人山は了承しました。皆で演奏し、アジア最高峰のミュージシャンが即興で演奏できる、津波の現状と、慰霊、残された町の人々の希望や力につながる曲を強く要望しました。構想がまとまれば 7 月中に、8 月 12 日に参加するミュージシャンとさらに曲づくりに取り組む計画です。

南三陸町の後、被災の状況を視察しながら東松島市小野文化センターに移動しました。到着したのは夕方、公民館の調理室で早速食材の仕込みにかかりました。江藤セデカさん、イーグル・アフガン復興協会会員ノビリタ・マヤさん、成宮勇さん、橋本岳人山さんらの協力で大量の玉葱、ジャガイモ、ニンジン、キュウリ、を刻み涙を流しながら、胴鍋で 400 人分の煮込みたれを調理し、鶏肉を香辛料で炒めると、交代で生活支援に当たるスタッフさんや子どもたちがカレーの匂いに「おいしそう」と声をかけてきました。夜十時には仕込みを終え、朝 4 時からの活動を終えて就寝。翌朝早朝から、味を調え、60 キロのご飯を炊き上げました。成宮さんは野菜不足の被災者のために大量のキャベツをみじん切りにして用意しました。一方浦川治造さんも北海道産の昆布と鹿肉、大量の野菜を煮込んで「エゾ鹿オハウ(汁)」を準備、胴鍋二本を完成。文化センターは、町内スピーカーで 12 時からアイヌ料理の炊き出しがありますと広報したこともあり、12 時前から人の列ができ、急ぎテントに料理を運び、炊き出しがスタート。「2 人分」「5 人分」「6 人分」と家族の数だけ注文が続き、1 時間半で鍋はきれいになりました。岳人山は、炊き出しに訪れた皆さんに演奏を披露し拍手を浴びました。食べた人からおいしかったと声をかけられたり、キャベツを大量に持ち帰る人もあり、野菜一杯の料理が喜ばれたなと感じました。



今回はまったく初めての炊き出しで、分量、味付けそして段取りと戸惑いながらの活動でしたが、今回の試みで一つの目安がわかりました。

8 月 12 日のチャリティコンサートを成功させ、大河原町えずこホールと現地の文化施設職員の協力を得て、秋以降の慰問音楽キャラバンと炊き出し活動を継続していきたいと思ひます。私たちの活動は、太平洋岸にそって 500 キロにわたって広がる被災地への支援としては、点にもならないさやかなものですが、できれば、支援の及びにくい状況にある被災者への援助を心がけたいと思ひます。今後とも皆様の変わらぬ援助をお願いします。写真等を含めた活動報告は改めてお知らせいたします。

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ 理事長 大野 遼(文責)
東京アイヌ協会 名誉会長 浦川 治造 (カムイミンタラ代表)
イーグル・アフガン復興協会 理事長 江藤 セデカ

在日の留学生、社会人のウイグル人、モンゴル人も被災者支援に乗り出す

今回の東日本巨大地震では、地震発生の翌日時点で 49 カ国から支援の申し出があり、一ヵ月後には 253 の国や国際機関からのさまざまな援助が行なわれた。しかし諸外国の災害救助チームが撤退し、ボランティアも少なくなる傾向にある中で、瓦礫撤去もままならず、夏を迎え、窮地に追い込まれつつある被災者が気になります。海岸から内陸部に向かい数キロの瓦礫のベルトが 500 キロも続く被災地の復興は、個人やボランティア団体のできる力を超えているが、医療支援、避難所の子供たちの保護、不足しがちな野菜を届ける援助、プライバシーのない体育館などでの暮らしに間仕切りダンボールを届けたり、自然エネルギーでお湯やお風呂を沸かして届けたりなど工夫しながら有名無名の個人が、何とか少しでも力になればと活動が続いています。

民間ベースで、アジアの仲間と息の長い活動を続けているのは宗教法人・日本イスラーム文化センター・マスジド大塚。3 月 11 日の地震発生から 6 月までに 73 回の炊き出しや生活物資の支援活動を続け、その模様を写真等でお知らせいただいている。

岩手大学のウイグル人留学生と関東近縁の留学生、社会人計 15 人のウイグル人が、6 月 5 日、岩手県盛岡市の旅館に避難している釜石市、大槌町、山田町の被災者 200 人余りの方々へ、ポロ、カワブ、サラダ料理の炊き出しとウイグル音楽、舞踊などを披露し、ウイグル人の帽子 40 個をプレゼントしました。今後継続して支援する計画です。

また東京藝術大学音楽学部助手アブドセミ・アブドラフマンさんは、日本人の友人 3 人とウイグル人 3 人の計 6 人で、5 月 21、22 日の二日間、福島県相馬市で被害の状況を視察した後石巻市に入り、

我が家を離れがたく避難所に行かず半壊状態の自宅に暮らす被災者 70 人に自らウイグル料理を調理したほか演奏も披露し、被災者を励ました。現在も 7 月末に二日間の炊き出しとミニコンサートを計画 중이다。

モンゴル国のアヨシ・バトエルデネさん(世界馬頭琴協会理事長)も、6 月だけでこれまでに 3 回、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市の被災者の避難先となっているお寺、小学校の体育館などを訪ね、慰問のコンサートや炊き出しに取り組んでいる。2 回目の炊き出しにはモンゴル国大使館から大使を含めて 3 人、在日モンゴル人 8 人の 11 人が参加、石巻市で、野菜スープやピロシキなどのモンゴル料理を 150 人の被災者に提供した。その費用は練馬区で実施したチャリティコンサートの収益金を充てた。バトエルデネさんは、秋以降の「アジアの心プロジェクト」にも参加いただけることになっています。

一方モンゴルでは、モンゴル航空(モンゴル・ニアット)とモンゴル国旅行協会が、これまで 3 回にわたり、被災者をモンゴル国のウランバートルや近郊のツーリストキャンプに一週間招待し、ゲルで休息したり、馬に乗ったりと気分転換してもらう活動に取り組んでいる。2 回目の活動の時は、たまたま帰国する横綱白鳳と機内で一緒になり、一週間後の帰国前日にはウランバートルで白鳳と一緒に食事をしたという。

こうした民間ベースの一つ一つの活動はささやかだが、気持ちを集め自発的、継続的な取り組みが続けば、国家、民族、宗教を超えた新しい絆につながると信じる。彼らと情報交換をしながら、私も継続的な活動を構築しようと思ひます。

【アルタイ通信 No 1】 日本語学校を開始しました

菅野 陽
埼玉県出身
文化服装学院夜間部卒業
KANNOTEKSTILE 代表



10 代の頃より海外の織物、生地、刺繍に興味を持ちアジアを中心に長期の旅行を重ねる。アパレル企業に勤務の後、世界の手工芸を尋ねる世界一周の旅に出かけその際ウズベキスタンで日本語学校運営者ガニシエル・N 氏と知り合い、2010 年 11 月より半年滞在。日本語、縫製を現地の子どもに教える。その後、2011 年 6 月からガニシエル氏の紹介により、ロシア連邦内アルタイ共和国、首都ゴルノアルタイスクに移動。現在、現地でデザイナーとして働き、また日本語学校を運営。



アルタイ式囲炉裏?



アルタイの夏



アルタイの岩絵

日中は暑く 30 度前後。ですが朝晩、雨が降ると非常に冷えます。体感で 18 度位でしょうか？今日の朝は白い息がでました。アルタイは冬が非常に寒く、マイナス 40 度まで下がります。なのでこちらの人々にとってはあまり寒くないらしく、私がブルゾンを着ているのに T シャツだったりします。また頻繁に雷を伴った雨が頻繁に降ります。山に囲まれているからか、天候は不安定です。日没も非常に遅く、現地時間の 2 時でもまだ明るい。今週の水曜日よりアルタイを・日本文化センター「金」のプログラムの一環として日本語学校を開始しました。場所はセンター代表のエドワルド・B の所有する新聞社のビルの一室。現在生徒は 15 人程度。多くは女性で高校生から 40 才と年齢の幅は広い。17 時スタートと遅めの

時間帯なので、子供はいませんが、今後増えると思われます。日本に関して、若者の間ではマンガやアニメなどのサブカルチャーが有名です。その他着物、生花、侍、忍者など殆どの人がわかります。もっともこれは他の国でも十分知られていると思いますが、、、またロシアならではのといったところでしょうか、「SAKE」これは私が日本人だとわかったとたん皆に言われます。

写真は先日いったアルタイ中部、アングダイ地域の写真。ゴルノアルタイスクから車で 5 時間程度。自然が非常に美しい。この地域には有名なペトログリフ(岩絵)もあります。折を見て、他の地域にも足を伸ばしたいとおもいます。(続く)

(2011 年 6 月 23 日「TURKMENISTAN」新聞一面に掲載)

翻訳：ベルディーエバ・ゴーヘル(トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学 東洋学部日本語学科 4 年生)

トルクメニスタンの大統領が日本の会社「川崎」と「双日」と会見

今日、トルクメニスタンのグルバングレイ・ベルデムハメドフ大統領は日本の企業である川崎重工業(株)の常務林敏和氏と双日(株)の環境、肥料、技術分野の責任者である吉村利治氏と会見した。双方は将来にわたって協力することを確認し、日本企業はよい機会が作られ、将来有望なトルクメン市場に関心があるということを示した。

大統領は、技術及びあらゆる分野において経験が豊富で、世界的にトップクラスである日本企業との協力を進めることを目的としている。両国のこの協同は最近新たな発展につながっており、満足していると伝えた。

この会議の初めに、以前に結ばれた総合的な契約、経済を発展させる工業分野、国の多くの政策などを考慮に入れ、相互関係の将来についての話が行われた。更に、マリ市(同国東部)でアンモニアと尿素製造工場の建設を実現することを話した。トルクメニスタンの経済の中で特に農業に必要である化学工業のこの新しい工場の建設が決定し、大統領は今年の 2 月に行われた地鎮祭に出席した。これについて日本企業側は進捗状況について報告した。

大統領と日本企業側は、特に石油化学、電気エネルギー、建築材料工業、および投資などの計画を考慮に入れ、また協働が可能な分野を発展させることについて話し合った。川崎と双日はトルクメニスタンとの関係をさらに深めるための新たな契約を結び、豊富な経営ノウハウと最高の技術を指導する意欲を示した。

会議の最後に、両国の関係がさらに発展を続けることを確認し合った。

* 新聞の名前:「TURKMENISTAN」(トルクメニスタンの最大の新聞)

* < 補足 >

双日(株)と川崎重工グループのカワサキプラントシステムズ(株)は、トルクメニスタンの国営化学会社から、同国最大の肥料製造設備を約 600 億円で受注した。

双日はファイナンスアレンジをはじめとする全体のとりまとめを担当し、カワサキプラントシステムズは肥料製造設備全体のエンジニアリングおよび機器の供給を担当。2013 年の稼働開始を予定。

メディア・ユーラシア情報

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。(編集部)

西アジア

イラク、日本に震災義援金 1000 万ドル 原油供給の用意も

AFP BB NEWS 2011 年 06 月 23 日 07:35 発信地:バグダッド/イラク

【6 月 23 日 AFP】イラク政府は 22 日、東日本大震災を受けて、日本に義援金 1000 万ドル(約 8 億円)を寄付する意向を明らかにした。また、原油輸出の用意もあるという。

イラク政府は声明で、「日本の震災を受けて 1000 万ドルの寄付を決めた。また、日本企業がイラク産原油の輸入に関心がある場合、これに対応する用意がある」と表明した。

日本は、津波による被害を受けた地域で原子炉の運転を停止。加えて、他の地域の原子炉も予防措置として一時停止しており、原子

力以外の電力供給源の模索を余儀なくされている。

日本はこれまでも、少量だがイラクから原油を輸入している。(c)AFP

http://www.afpbb.com/article/politics/2808334/7414515?utm_source=afpbb&utm_medium=topics&utm_campaign=txt_topics より

シリア 市民への弾圧強化懸念

6 月 25 日 NHK NEWS WEB

反政府デモに対する厳しい弾圧が続くシリアでは、24 日も軍や治安部隊がイスラム教の礼拝のあとに行われたデモに対して銃を発砲し、11 人が死亡したほか、軍は多くの市民が避難している隣国トルコとの国境付近に部隊を集結させており、弾圧がさらに強まる

ことが懸念されています。

シリアでは、24日、イスラム教の金曜日の集団礼拝のあと、全土に渡ってアサド大統領の退陣を求める数万人規模のデモが起き、これに対して軍や治安部隊が銃を発砲し、各地で多数の死者数が出ているもようです。シリアで情報を収集している人権団体によりますと、首都ダマスカスや中部のハマなどで少なくとも11人が死亡したとみられています。一方、軍は2週間ほど前からトルコとの国境に近い北部のジスル・アッシュグールの付近で軍事作戦を続けており、23日にも新たな戦車部隊を国境付近の村に展開させました。トルコ外務省によりますと、シリアからトルコ側に避難した市民はこの3週間でおよそ1万2000人に上り、23日も弾圧を恐れた市民およそ1500人が新たにトルコ側に避難したということです。アサド大統領は今週、首都ダマスカスで演説を行い、国民との対話を通じて改革を進める考えを示す一方で、デモに対しては断固とした対応を取る姿勢を崩しておらず、今後、市民への弾圧が一層強まることが懸念されます。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20110625/t10013758831000.html> より

中国・カザフ 国境またぐ異例の「経済特区」

産経ニュース 2011.6.15

【上海＝河崎真澄】上海協力機構（SCO）の首脳会議に合わせ、中国とカザフスタンは15日までに、両国の国境をまたぐ経済特区を7月1日に正式スタートさせることで合意した。外国人を含め30日間のビザ（査証）なし滞在や、資本や貨物を含むヒト・カネ・モノの自由な移動を認める異例の特区となる。

中国国営新華社通信が伝えたところによると、この特区は、新疆ウイグル自治区側の約4平方キロと、国境を接するカザフ側の約2平方キロにまたがるホルゴス地区に置かれる。7月1日から両国が共同管理する「ホルゴス国境辺境協力センター」が特区運営を行う。

特区には、すでに保管倉庫や会議センター、金融サービス拠点などが建設されており、民間企業の進出が一部始まっている。特区経由での中国製の自動車や家電などの中央アジア向け輸出増が期待されている。

中国にとって、天然ガスや石油など地下資源の供給国となるカザフとの関係拡大が重要な国家戦略になってきている。訪問先のアスタナで、カザフのナザルバエフ大統領と会談した胡錦濤国家主席は、「2015年までに両国の貿易規模を400億ドル（約3兆2000億円）にする」と述べた。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/110615/chn1106151955004-n1.htm> より

イラン：女性VS警察、露出度いたちごっこ 夏恒例、ヘジャブ取り締まり

【テヘラン＝鶴塚健】イスラム教国のイランで、毎夏恒例の女性のヘジャブ（かぶりものの総称）着用を徹底する警察の取り締まりが始まった。近年、都市部の若い女性たちの間ではヘジャブの一種、スカーフから前髪を出す傾向が強まり、髪への露出度は増している。当局とのいたちごっこが続くが、女性の反発は強まるばかりだ。

首都テヘランは連日、気温35度前後の暑さ。しかし、外国人を

トルコ政府高官 日本の原発への信頼揺るがず 受注交渉再開を期待

産経ニュース 2011.6.26

トルコでの原発建設の受注を目指しているものの、東京電力福島第1原発事故の影響で交渉を中断している日本企業に関し、トルコのエネルギー天然資源省高官（原子力担当）は産経新聞の取材に、日本の最新技術への信頼は揺らいでいないと強調、日本側との交渉再開に期待感を表明した。

一方で別の政府高官は、交渉が一度頓挫した韓国のほかロシア、フランスなどからも交渉の打診があることを明らかにしており、トルコの原発をめぐる国際商戦は激化しつつある。

トルコは有数の地震国で、1999年8月には北西部で約1万7千人が死亡する大地震が起きている。ただ、エルドアン政権は日本の震災後も原発推進の旗を降ろさず、原発建設の是非が争点の一つとなった今月12日の総選挙で圧勝した。

同省高官は「福島第1原発は日本で最も旧式の原発。現在と比較はできない」とした上で、「トルコ側の態勢は整った。あとは日本だ」とコメントした。

中央アジア

含むすべての女性は、髪を隠すヘジャブと肌を覆う長袖コートの着用を義務づけられている。保守系の宗教指導者らは、髪や肌の露出を増やす女性たちを「男性を惑わし、家族を破壊する反イスラミックな存在」と批判する。

テヘランでは主要な交差点で女性警察官が通行人の女性をチェックしている。ただ、近年は前髪の露出や体の線がわかる「不適切」なファッションは珍しくない。テヘラン北部に限れば若い女性の大半が保守派の言う「違反者」とみられる。

そうした全員の取り締まりは不可能で、警察は一部を摘発するのが精いっぱい。しかもその基準はあいまいだ。現場では「なぜ私だけ？」と反発する声が続いている。

摘発されれば4000円程度の罰金。刃向かえば最高2カ月の禁錮刑もあり得るといふ。テヘラン市内の主婦（35）は「ヘジャブは厳しく強制されるほど女性は抵抗する。基準も不明確な取り締まりは全く逆効果」と話す。

毎日新聞 2011年6月23日 東京夕刊

<http://mainichi.jp/select/world/news/20110623dde007030017000c.html> より

アフガン自立へ不安は残る

日本経済新聞 6月24日

米国のオバマ大統領がアフガニスタンに駐留する米軍部隊の撤収計画を発表した。7月から撤収を始め、来年夏までに3万3千人を帰還させる。アフガニスタンの治安維持の課題を残しつつ、戦費削減を迫られた米政権の苦渋の決断といえる。

アフガニスタンには現在、約10万人の米軍が駐留している。オバマ政権は2009年末に打ち出した新戦略に基づき、約3万人を増派してテロ掃討作戦を強める一方、今年7月からの撤収開始を公約していた。

大統領は今回、米軍の増派が国際テロ組織アルカイダの掃討などで成果をあげたと強調した。01年の米同時テロ事件の首謀者、ウサ

炭鉱開発による環境破壊に抗議していた遊牧民男性メルゲンさんの死をきっかけに、同自治区内の各地で、モンゴル族の権利保護を訴える抗議デモが起きた。

新華社によると、メルゲンさんは 20 人の遊牧民とともに、トラックが騒音とほこりをまき散らしていることに抗議。進路をふさごうとしたが、トラックにはねられ 145メートル引きずられて死亡

したという。

公判は 6 時間の審理で即日結審し、判決が言い渡された。今回のスピード判決は、中国政府がモンゴル族の懸念を深刻に受け止めていることを示し、デモの沈静化を目指したためだとみられている。

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPJAPAN-21616520110609> より

【不連続掲載】【アジアから見える日本考】第 4 回

私は 30 年ほど前、加藤九祚先生のお供でアルタイ山脈のスキタイ時代の古墳を発掘しようと、一緒に高原を涉猟し、一基の古墳の発掘に参加したことがある。シベリア科学アカデミーの学者、学生たちと一緒に掘り進んだが何も出ず、ほとんどあきらめかけた時、コンという音がした。それで発掘されたのが、アフアナシェヴォ文化(BC3500-2500年)の長身の人骨だった。この時にはじめて聞いたのがアンドロノヴォ文化(BC2300-1000年)であり、インドイラン系文化という言葉だった。その後ウラジボストク近くでの発掘でもアンドロノヴォ文化という言葉を目にし、インドイラン系文化が随分とアジア各地に広がっていたことを知った。

その後加藤先生は、文献を通じたユーラシア学に加えて、自ら発掘することによる、学术界への貢献という新しい道に転進し、国立民族学博物館退官後は、「国際シルクロード学研究所」を立ち上げて、この 20 年間、キルギス、ウズベキスタンで共同発掘調査を続けてきた。昨年実施した米寿記念の「シンポジウム&フェスティバル」は 20 年の節目に実施されたものだが、実はその前年、発掘を支援していただいた方々と「オクスサス学会」を立ち上げ、さらに次のステップを見通した動きに入っていた。その中で持ち上がり実現したのが、ウズベキスタン科学アカデミーの中心人物エドヴァルド・ルトヴィラゼ博士の「考古学が語るシルクロード史 中央アジアの文明・国家・文化」の翻訳刊行だった。加藤先生の「国際シルクロード学研究所」の行き着いた、「シルクロードのミッシングリンク」の紹介であり、旧ソ連時代以来の中央アジア考古学の集大成の紹介は加藤先生でなければできない偉業となった。そしてその出版記念講演で行なったトルクメニスタン・メルブ(マルギアナ)の発掘成果の紹介は、シルクロード学を超えた世界史の源流に日本人を誘導した実に画期的な意義を持つことになった。それは、シルクロードの真ん中で活躍している「インド・イラン系」形成の謎解きにつながる舞台を示したからだ。

この謎解きは単純ではないので、これから多くの研究と議論が行なわれることになると思われるが、今行なわれている議論は、ゴヌール(マルグシュ)遺跡の性格とアヴェスタやリグベダに代表されるイラン(ペルシャ)とインド(サンスクリット)の語族グループが分化する前の「インド・イラン共通時代」アーリアの故地、ゾ

シルクロードが世界史の源流につながった

大野 遼

ロアスター教の形成に関するもので、いくつかの意見がある。

この議論の中心にあるのは、紀元前 2 千年頃、チャリオットと呼ぶ二輪戦車を発明したアンドロノヴォ文化の担い手と、トルクメニスタンの考古学者サリアニディ氏が発掘したゴヌール(マルグシュ)遺跡あるいはバクトリア・マルギアナ複合と呼ばれる旧アマダリア川・オクスサス川流域からカスピ海東部に広がる小麦や大麦などの農耕と牧畜の両方が見られる都市文明との関連をどう考えるか、であって、私はゾロアスター教の形成との関係に興味を持っている。

ここでは、ゴヌール(マルグシュ)遺跡を原インド・イラン系の文化と考える発掘者のサリアニディ氏に対して、二人の比較言語学の研究者の意見を一部紹介するとどめる。

一人は、5月15日にメルブの遺跡を紹介した加藤先生の資料にあった言語学者 A. ルボツキーの考えで「インド・イラン系：アーリア人は牧畜民-遊牧民であって、バクトリア・マルギアナ複合(文明)の創建に加わったとは到底考えられない。アーリア人はステップのアンドロノヴォ文化人だった可能性が高い。彼らは前 2000 年紀初めに中央アジアに住み、当時文化的に高い発展水準にあったバクトリアとマルギアナの住民と密接な関係にあった(以下略)」という。

もう一人も、比較言語学者で、インドアーリア語動詞研究の「三聖人」の一人という後藤敏文・東北大学大学院文学研究科教授が展開する意見で「インドイラン共通時代に何か相当に大きな変革があった。現地の文化と遭遇して、その新たに会った文化が相当に強力で、制度的な問題をクリアする必要に迫られた、そうでないと生き延びることができなかった、そういう状況下で、外圧から借りた観念を神々として表象し伝えている...その強力な遭遇相手とは、それが最近、発掘その他で重要な関心事になっているトルクメニスタンの『バクトリア=マルギアナ考古複合』(「サリアニディ氏の発掘したゴヌール遺跡が)インド・ヨーロッパ語族のインドイラン語派の人たちの居城だということです。そんなことは考えられません。移動する遊牧略奪民族であり、物質文化を軽蔑していた人々に、あんな頑強な都市があったら、厄介で生活できないでしょう。彼らはむしろ平原を開かず、土地を囲い込む人々を敵視しています」と断言する。アジアから世界史が見える。アジアから日本が見える 原点に限りなく近づいた。(続く)

<<チラシが完成・チケット頒布スタート>>大人先着 250 名。前売 2 千円!! 小中高生は無料。

イラン、ウイグル、モンゴル、ネパール、日本/アジア最高峰のミュージシャンが集合!!

8 月 12 日(金) 愛川町文化会館で、チャリティコンサート。秋にミュージシャンを被災地に送る

被災地に響け、イラン、ウイグル、ヒマラヤ、モンゴル、シルクロードの音色(慰問キャラバン)

中津川弁才天・第2回愛川町音楽祭 キーワードは「絆(きずな)」

「アジア・シルクロード音楽フェスティバル 伝統の継承 アジアの系譜」

地域の絆：愛川町・三増獅子舞 そしてアジアの絆を感じる音楽祭

本番前に篠笛と尺八のワークショップ開催。オープニングで成果を発表！

楽器を持ってホールに行こう！フィナーレで舞台と客席が大合奏！

東日本巨大地震被災地慰問チャリティコンサート

アジア・シルクロード音楽フェスティバル

絆(きずな) 伝統の継承 アジアの系譜

中津川弁才天第2回愛川町音楽祭

音楽の森・ベルシャから来た音楽道行者 ダルヴィシュ シャーザボリ・ハミド

近世アジアの音楽史はモンゴル時代(元)が派説 世界鳥類学会理事兼 アヨシバトエルデネ

三増獅子舞

アブドセム・アブドラフマン ウィグル古典音楽 12人カム専門隊→

篠笛の名人 木村 俊介

尺八の頂点 全国チャンピオン 橋本岳人山

河西 堅

音楽キヤラバン

中津川の地下河川は、ワグルにつながるの？ 弁才天はどこから来た？

主幹・企画制作：NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ
協力：三増獅子舞保存会 神奈川県立愛川高校
まちづくりネットワーク中津川(学協会) 財団法人龍蔵会
中津川総合クラブ サークル愛川自然観察会
パルチカラマ サラシラマ 河西堅 木村俊介 橋本岳人山
アシシ・ウエルズ子 シャーザボリ・ハミド アブセム・アブドラフマン
イェグル・アパル・復興協会 モンゴル・ファンクラブ カムイ・シントラ
この事業は平成23年度あいち府民活動応援事業に採択されています。

ホットする空間・愛川町：水の女神(観音、弁才天)が潜む町

日本の近代化を支えたシルクロード産業の起源地

中津川・江戸島の子が天下の真珠を採り、和太鼓演奏に欠かせない「節」の文化育成が、アジアが見える。伝統を継承する文化のまもりにつながっている。教育で継承されてきた西洋音楽のクワリット、オーブエ、フルートの楽器も、尺八、薩摩太鼓、日本の古伝バシヤのナイ、北インド、ネパールのバンスが起死回生されている。

中津川弁才天第2回愛川町音楽祭 アジア・シルクロード音楽フェスティバル 伝統の継承 アジアの系譜

【プログラム】
＜オープニング＞
— 三増獅子舞 —
「笛」ワークショップの成果発表

第一部 伝統の継承「笛」
・天竺の音色
・歴史する音楽
・アジアの系譜
・水への願い
・創作曲「炎音」発表
「2011年5月11日」
＜フィナーレ＞
舞台と客席大合奏

音楽フェスティバル出演第一級ミュージシャン

モンゴル国
① アヨシバトエルデネ

イラン・イスラム共和国
② シャーザボリ・ハミド

中国・新疆ウイグル自治区
③ アブドセム・アブドラフマン
④ タンヌル

ネパール
⑤ パンチャ ラマ
⑥ サラシラ マ

日本
⑦ 橋本 岳人山
⑧ 木村 俊介
⑨ 河西 堅

アジア・シルクロード音楽フェスティバルチケット購入申込書

氏名	同伴者お名前、人数	
◎チケット代金	大人 枚 円	子ども 枚
電話・ファックス	メールアドレス	
氏名	◎ご寄付(10千円)	円

当日プログラムへのご芳名記載： 要・不要

ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。

アジア各地からの投稿を歓迎します。ユーラシアンクラブ・企画編集委員会までお知らせください。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1
TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込みの場合：ゆうちょ銀行0一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート会費、ご寄付はこちらへ。会費は年間一口6,000円、一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 0701 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：私のできることをやろう、と巨大地震から一か月後原チャリで36時間、一睡もせず福島、宮城を走り抜けた結果の南三陸町、東松島市慰問コンサートと炊き出し。岳人山の曲づくりを楽しみに待っている。8月12日のコンサート進行が少しずつ形になってきた。ノーギャラ出演のミュージシャンの熱い胸のうちを感じに、ぜひホールまでおいでください。被災地にシルクロードの音楽を届ける「アジアの心プロジェクト」。炊き出しだけでなく、ミュージシャンを送り、被災者に寄り添う時代。一口千円で結構です。ご協力をお願いします。ユーラシアンクラブの原点はアルタイ山脈。アルタイ族のユルタでニンニク一杯のヒツジ肉を食べたのは30代半ば。30年経ちました(お)